

【第2次札幌新まちづくり計画 平成22年度進行管理評価結果】

『政策目標5 文化の薫る、都市の魅力が輝き、にぎわう街』

重点課題3 将来を見据えた魅力ある都市の整備

＜施策の基本方針＞

都市の持続的な発展を目指し、市民・企業・行政が一体となって、都心の魅力と活力を高めるために実効性のあるまちづくりを進めるとともに、市民の日常生活を支える地域の拠点を再整備し、道都にふさわしい風格のある街並みにぎわいを創出します。また、公共交通機関を軸とした交通体系の確立を図り、人と環境を重視した快適で美しい街の実現を図ります。

● 事業費の進捗率

93.1% 算出式：(H19決算額+H20決算額+H21決算額+H22予算額) 41,491,721千円 / (計画事業費) 44,580,000千円

● 施策別の主な取組内容

19～21年度(実績)

【施策1】都心のまちづくり

- ・都心まちづくり戦略の素案の策定。
- ・創世1.1.1区再開発基本計画の策定。
- ・市民交流複合施設基本計画、市民交流複合施設実施方針の策定等。
- ・札幌駅交流拠点再整備構想の策定に向けた調査・検討。
- ・大通、駅前通、すすきの、創成以東地区エリアマネジメント促進支援等。
- ・札幌駅前通公共地下歩道の広場に関する条例の検討。
- ・創成川通親水緑地空間への公園造成等。

【施策2】快適で魅力的な地域への再構築

- ・苗穂駅周辺まちづくり計画に基づく調整・協議等。
- ・歴史的建造物等を生かした景観ガイドラインの策定。
- ・JR篠路駅西第2地区の再開発への支援等。

【施策3】公共交通機関の利便性向上

- ・都市交通マスタープランの策定。
- ・札幌市路面電車活用方針の策定。
- ・札幌市バス路線維持基本方針の策定等。

22年度(予定)

【施策1】都心のまちづくり

- ・都心まちづくり戦略の策定。
- ・創世1.1.1区北1西1街区再開発準備組合負担金措置等。
- ・創造活動センター検討、市民交流複合施設ホール等検討。
- ・札幌駅交流拠点再整備構想の策定。
- ・大通、駅前通、すすきの、創成以東地区エリアマネジメント促進支援等。
- ・札幌駅前通地下広場条例の制定。
- ・創成川通親水緑地空間へのアートワークの設置。

【施策2】快適で魅力的な地域への再構築

- ・苗穂駅周辺まちづくりの推進プログラム策定。
- ・(仮称)自転車利用総合計画の策定
- ・琴似4・2地区の再開発への支援等。

【施策3】公共交通機関の利便性向上

- ・札幌市総合交通計画の策定に向けた検討。
- ・交通ICカードの多目的利用への検討

● 市民・企業等との協働の状況

■ 市民との連携、市民参加

- ・(仮称)市民交流複合施設整備事業：地元文化芸術活動団体やホールの専門家等との意見交換を行いながら、具体的な施設規模や設備等について検討を行い、市民交流複合施設実施方針を策定した。

■ 企業等との連携・協働

- ・都心再生協働事業：各地区のまちづくり協議会等に参加し、地元事業者と共に議論を行ったほか、まちづくり活動への支援を行い、協働によるまちづくりを実践した。大通・駅前通地区では、まちづくり会社の設立に向けた詳細の検討と地区内での合意形成の支援を実施した。

■ 市民・企業等が参加しやすい環境づくり

- ・創成川通親水緑地整備事業：地元住民との意見交換やシンポジウム、パネル展等を実施し、市民に対する情報の共有化を図りながら市民等が参加しやすい環境づくりを進めている。

● 評価(成果)と課題

【施策1】都心のまちづくり

「都心まちづくり戦略」の策定に向けて今後のまちづくりの基本的な方向性の検討を進め、素案を策定した。また、札幌駅前通公共地下歩道、創成川通アンダーパス連続化の地上部工事を進めるとともに、創世1.1.1区北1西1街区再開発推進計画、市民交流複合施設基本計画等の策定を行った。さらに、都心内各地域において地域の管理を地域が主体的に行う取り組み(エリアマネジメント)への支援等、市民・企業との協働によるまちづくりを進めている。⇒市民・事業者・学識経験者等の意見・意向を踏まえた都心まちづくり戦略や札幌駅・大通・創世各拠点の計画等の策定を行うとともに、民間の主体的かつ自発的な「実働組織」が必要であり、その設立に向けて地元事業者や事業者の意欲を高めていくことが課題である。

【施策2】快適で魅力的な地域への再構築

「JR篠路駅西第2地区」再開発事業や「苗穂駅周辺まちづくり」への支援・調整等、市民・企業等との協働により拠点の再整備に向けた取り組みを進めるとともに、歴史的な建造物等を生かした景観ガイドラインの策定に向けた検討を行うなど札幌の自然、歴史や文化を大切にしたい美しい都市景観づくりを進めている。⇒各まちづくり計画の実施にあたり、引き続き地域住民や関係機関との調整を図っていく必要がある。

【施策3】公共交通機関の利便性向上

都市交通マスタープランの策定や札幌市路面電車活用方針を策定するなど、将来のまちづくりの方向性を踏まえた交通体系のあり方についての検討を進めている。また、JR駅のバリアフリー化の推進や、ICカード「SAPICA(サピカ)」の導入など、公共交通機関の利便性向上を図る取り組みを進めた。⇒今後もバリアフリー化や乗継環境の向上などの取り組みを進めるとともに、社会状況の変化、市民ニーズ、環境問題などへ対応した新たな交通計画が求められているため、これまで以上に公共交通事業者相互の連携や市民との協働の取り組みが必要となる。

● 今後の重点取組

国立社会保障・人口問題研究所の推計のとおり人口減少期が目前となり、かつ人口構造が少子高齢化へ大きく変容していくことがほぼ確実である状況の中で、都市としての魅力と市民生活の場としての利便性を高めるため、都市構造を強化していくことが重要となっている。このため「札幌市総合交通計画」「都心まちづくり戦略」の策定など、「コンパクト・シティへの再構築」を実践するため、今後のまちづくりの基軸の明確化とその実現のための施策の体系化を図る。

● 主な達成目標の状況

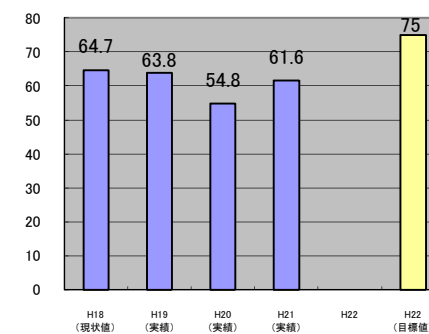
達成目標名	目標値(目標年度)	H18(現状)	H21(実績)
都心まちづくり戦略の策定	策定(H19)	検討	素案策定
都心まちづくり戦略会議の設置	設置(H19)	検討	設置
創世1.1.1区街づくり指針の策定	策定(H19)	検討	策定
北1西1・大通東1再開発基本計画の策定	策定(H19)	検討	策定
〔(仮称)市民交流複合施設整備〕施設基本計画の策定	策定(H20)	検討	策定
〔北海道新幹線推進〕札幌延伸の早期事業化の推進	推進(H22)	—	推進
札幌駅交流拠点再整備構想の策定	策定(H22)	—	検討
サッポロ広場形成計画の策定	策定(H22)	検討	検討
新中心市街地活性化基本計画の策定	策定(H20)	検討	認定調整
創世1.1.1区・札幌駅前周辺地区交通環境改善計画の策定	事業化調整(H22)	—	検討
地下歩行空間(地下歩道)の整備	供用開始(H22)	工事中	工事中
〔創成川通〕アンダーパス連続化	供用開始(H20)	工事中	供用開始
創成川通地上道路部分整備	完成(H22)	工事中	工事中
「まち本」等活用講座受講者数	500人(H22)	127人	969人
都市景観重要建築物等の指定件数(累計)	30件(H22)	18件	29件
栄町駅周辺交通環境整備計画の策定	策定(H19)	検討	策定
JR篠路駅西第2地区再開発事業	完了(H21)	—	完了
〔「ひかりの」元気の杜推進〕土地活用率(地区内において宅地建設など土地の利用が図られた割合)	30%(H22)	19%	28%
〔図書館サービス網の拡充〕ネットワークへの組み入れ箇所数	40力所(H19)	38力所	41力所
ノンステップバスの導入台数(累計)	75台(H22)	51台	95台

● 主な施設・サービスの整備水準

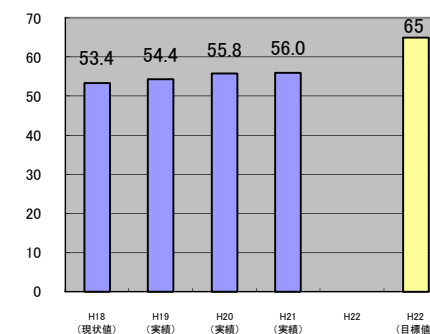
該当なし

● 成果指標等の動向

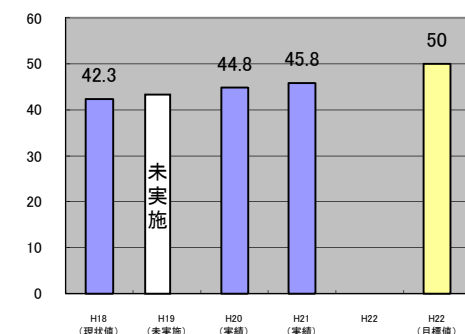
札幌の都心に「にぎわい」があると



住んでいる地域の住環境(街並み)に



公共交通に対する満足度(単位:%)



公共交通の利用者数(単位:万人)

